

第3次アクションプラン 10の行動

5つの基本方針(目指す学校像)を具現化するために、10の行動計画を定めました。
我々農業高校は、以下に示す行動計画に従って具体的な行動を起こしていきます。

全国農業高等学校長協会			佐用高等学校(農業科学科)	
No.	行動計画	キーワード	行動計画	キーワード
1	「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	アグリマイスター顕彰	科目「課題研究」では課題の選定、計画、実行、評価まで幅広い思考、判断と実践力を身につけます。小型建設機械、アーク溶接、検定等生徒の進路実現に合わせた資格取得推進します。モーモークラブ、栽培研究班活動をとおして飼育、栽培管理への興味関心を深めます。	課題研究 資格取得 モーモークラブ 栽培研究班
2	「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	グローバル教育	ブラジルの大規模な農業と日本の農業を比較することで、農業に対する理解を深め、視野を広げる教育を進めます。農業認証「GAP」についての理解を深め、実践する教育を推進します。	ブラジル農業研修 GAP
3	「地域農業の生産を支える」教育を行います。	生産技術・経営	農家、農業関連事業所等におけるインターンシップをとおして幅広い知識、技術の習得と、農業経営の工夫などについて理解を深めるとともに、社会人としての素養を身につけます。希望生徒には栽培、飼育農家と連携した農家研修を長期休業中に行います。産官学連携により先進技術を取り入れた植物工場研修、実習からICTを活用したスマート農業を学び、地域農業の課題を考える力を身につけます。	インターンシップ 農家研修 先進技術研修
4	「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	地域産業貢献・6次産業化	地域の特産品「あさぎり茶(紅茶)」茶葉栽培支援から商品化した、煎茶「庵のしずく」に続いて、校内茶畑の育成を進め新しい高校ブランドの商品開発に取り組みます。家政科との学科間連携によるブドウジャム、紅茶ケーキを始めとした6次産業化、商品開発に取り組みます。ヒガシマル醤油、南光ひまわり館との連携により、生産工程で出る副産物の有効利用研究を推進します。	あさぎり茶栽培支援 商品開発 地域副産物利用
5	「地球環境を守り創造する」教育を行います。	環境技術・創造	環境への負荷を軽減するため有機質資材の施用による「土づくり技術」を基本に化学肥料低減と農薬低減を推進し、安全・安心な農産物の生産に取り組みます。有機質資材には校内生産した牛ふん堆肥、鶏ふんを利用し循環型農業を推進します。	循環創造型農業 循環型農業

6	「食農」教育を推進します。	食農教育	ブロイラーの飼育からと畜解体実習をととして、命を育み、命の尊さ、感謝の気持ちを醸成する実践教育に取り組みます。 幼稚園、保育園、小学校1, 3, 5年生、特別支援学校と連携した栽培支援、交流をととして生徒が主体となった食育教育を推進します。	命の教育 アグリスクール
7	「地域資源を活用する」教育を行います。	資源活用	学校設定科目「地域実践」における花しょうぶ園、棚田等の整備、維持管理活動から地域農業の歴史や現状を体験的に学ぶ地域資源並びに教育力の活用を行います。	地域実践
8	「地域交流の拠点となる」教育を行います。	ヒューマンサービス	各種イベント、校内行事における販売実習や体験活動をととしてコミュニケーション能力を養い、専門学習の成果披露を披露するとともに地域住民との交流を推進します。地域団体の植栽草花苗の委託を受け生産、配布を行います。	地域連携 販売実習
9	「各種農業関係機関・団体と連携した教育を行います。	地域連携	関係機関と連携した農業経営研修(先進技術・経営視察)に積極的に参加します。 兵庫みどり公社、農業改良普及センターと連携した就農講座を実施し、本校OB就農者による体験発表、若手就農者育成に向けた情報提供を行います。	農業経営研修 就農講座
10	「地域防災を推進する」教育を行います。	地域防災	科目「農業と環境」で農業の持つ多面的機能や役割を学習し、棚田等の維持管理活動をととして地域防災への理解を深める取り組みを展開します。 東日本大震災復興支援東北ボランティアの実施と報告会をととして、防災意識の醸成を図り、地域防災につなげる活動を継続します。	農業の多面的機能 東日本復興ボランティア